

令和7年度 前期 ビジネス・キャリア検定試験

経営戦略分野
3級 経営戦略

試験問題

(13 ページ)

1. 試験時間 110 分

2. 注意事項

- (1) 試験問題は、係員の指示があるまで開かないでください。
- (2) 表紙に記載されている試験区分名が、申請している試験区分名と同じか確認してください。申請している試験区分と異なる試験区分を受験した場合は採点できず、不合格となりますので、ご注意ください。なお、試験開始後に申し出られても、試験時間の延長はできません。
- (3) 試験問題は、40題あります。
- (4) 試験問題の配点及び合格基準は、次のとおりです。
(配 点) 問題1～問題40 各2.5点 合計100点
(合格基準) 試験全体として概ね60%以上の正答。
- (5) 関係法令、会計基準、J I S等の各種規格等に基づく出題については、問題文中に断りがある場合を除き、令和7年5月1日時点で施行されている内容に基づくものとします。
- (6) マークシートにマークする際には、HB又はBの黒鉛筆で、はっきりとマークしてください。それ以外は使用しないでください。なお、訂正する場合は、採点の際にマークシートの誤読の原因となることがありますので、きれいに消してください。
- (7) 計算等が必要な場合は、問題用紙の余白を使用してください。
- (8) 問題番号及び問題文に従って正解と思われるものを1つだけ選んで間違えないようにマークしてください。
- (9) 試験問題の内容に関する質問には、一切お答えできません。
- (10) 試験中にトイレへ行きたくなった場合は、黙って手を挙げて係員の指示に従ってください。
- (11) 試験終了時刻前に解答が済み、退出する場合は、黙って手を挙げて係員の指示に従ってください。ただし、試験開始後30分間及び終了前10分間は、退出できません。なお、退出する場合は、周りの受験者に配慮して、静かに退出してください。
- (12) 試験終了の合図があつたら速やかに筆記用具を置き、係員の指示に従ってください。
- (13) 試験終了後、マークシートを必ず提出してください。ただし、試験問題は、持ち帰ることができます。なお、マークシートが提出されていない場合は、失格となります。
- (14) カンニング行為（他の受験者の答案等を見ること・他の受験者に答えを教えること・他者から答えを教えること・指定されたもの以外のものを机上に置くこと等）、替え玉受験、不正行為と疑われるような紛らわしい態度をとる行為、他の受験者の迷惑となる行為、係員の指示に従わない場合などは、不正行為とみなされます。不正行為とみなされた場合は、直ちに退場となり、当該期に受験する試験区分のすべてが失格となります。
- (15) 試験問題の転載、複製などを固く禁じます。

問題 1 ビジョンを策定する際の要件として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．従業員のモチベーションを高めるものであること。
- イ．競合他社との差別化が図られていること。
- ウ．従業員の願いや想いをまとめたものであること。
- エ．将来的なアウトプットを明示していること。

問題 2 経営戦略部門の業務体系を構成する要素として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．自社やグループの中期経営計画等の総合企画
- イ．中期経営計画の進捗管理と実績対比等の戦略管理
- ウ．ミドル・マネジメントからの特命事項の対処等の経営サポート
- エ．自社に適合する経営管理技術の開発等の経営システムの刷新

問題 3 経営戦略部門の対外的な位置付けに関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．マスコミや関連団体を含む様々な場所から情報を収集する情報センター
- イ．社内の事業部門と社外の関係企業やコンサルタント、教育機関等との橋渡し役
- ウ．対政府、公官庁や業界団体との折衝の窓口
- エ．経営戦略の基礎知識を社員に教育する研修センター

問題 4 経営戦略部門に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア．高収益企業は低収益企業に比べて、経営戦略の策定における経営戦略部門のイニシアティブが強い。
- イ．経営戦略部門は、トップ・マネジメントを補佐するため経営環境情報を収集・分析してトップ・マネジメントに提供するが、各部門には、提供する義務がない。
- ウ．経営戦略部門は、全社的な経営戦略の策定業務を行っているため、各部門の業務に直接的に介入し、日常的な業務オペレーションを細かく管理することが求められる。
- エ．経営戦略部門が収集する情報には高い正確性と確実性が求められるため、高成長企業も低成長企業も、非公式なネットワークを通じて独自に情報を収集することはない。

問題 5 経営戦略部門が担う内部統制機能に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．長期経営計画等の経営計画と実績の対比を行うこと。
- イ．業績評価基準に基づいて、業績内容を明確化すること。
- ウ．組織変革を主導し、全社一体感を醸成すること。
- エ．グループや関連会社を対象とする管理基準に基づいて、管理・統制・指導を行うこと。

問題6 経営戦略に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 経営戦略には、企業の将来の方向あるいはあり方に一定の指針を与える役割がある。
- イ. 経営戦略には、企業がいかなる事業を行うかを中心に、企業と環境とのかかわり方や環境適応のパターンを決める役割がある。
- ウ. 経営戦略は、企業における様々な意思決定の指針あるいは決定のルールとしての役割を担っているため、具体的かつ詳細な内容であることが求められる。
- エ. 経営戦略が、どの程度の将来にわたってどの程度の具体性をもち、どのような形で提示されるべきかは、企業の置かれた状況によって異なる。

問題7 経営戦略部門に求められるスキルに関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 情報リテラシーにおいてより重要となるのは、形式的情報の編集能力である。
- イ. 経営戦略部門に求められる変革能力とは、企業変革の実行プロセスを支援することである。
- ウ. デザイン能力とは、イメージしたものを具現化し、何か目に見える形へとつくり上げる能力である。
- エ. 今後の経営戦略部門には、実施部門の視点で考える、効果の高い問題解決手法の開発能力が求められる。

問題8 これからの経営戦略において求められる企業の姿として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. イノベーター
- イ. リスクテイカー
- ウ. アジルクンパニー
- エ. フォロワー

問題9 A社（製造業）のドメインに対する考え方として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. ドメインの決定は、今後どのような社会的使命や社会的価値を実現しようとしているか、自社内だけではなく社外にも表明する手段である。
- イ. ドメインの選択は、社会環境の変化に合わせて、事業多角化の広がりを決めると同時に、より自社の存在意義を高める効果がある。
- ウ. ドメインは、自社の歴史や風土、さらに事業の性格を考慮すると、自社の中核となる技術を中心に考えて定義すべきである。
- エ. ドメインは、自社の生存領域の幅と深さを固定的に定義すべきである。

問題10 PPMマトリックスに関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 低い市場成長率・高いマーケットシェアは、市場の拡大が見込めない「問題児」に分類される。
- イ. 低い市場成長率・低いマーケットシェアは、シェア拡大が見込めない「負け犬」に分類される。
- ウ. 高い市場成長率・高いマーケットシェアは、キャッシュの流入が見込める「金のなる木」に分類される。
- エ. 高い市場成長率・低いマーケットシェアは、市場の拡大が見込める「花形」に分類される。

問題11 経営資源の分類に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 従業員の中でも未熟練な人材は、変化度の高い資源に分類される。
- イ. 経営資源の汎用性の程度は、換金可能性の高さによって左右される。
- ウ. 企業ブランドや顧客ロイヤリティは、情動的経営資源の中でも特にグッドウィルに分類される。
- エ. 創業時から取引を行っているメインバンクからの長期借入金は、取引の特性から情動的経営資源に分類される。

問題12 メーカーにおける情動的経営資源及びマーケットシェアに関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. マーケットシェアが高いと、競合他社に比べて、生産や販売のノウハウ等の情報の蓄積が大きくなり、製品1単位当たりの製造・販売の費用の合計額が低くなる。
- イ. マーケットシェアが高いと、より多くの顧客と接する機会が増え、競合他社に比べて、自社の知名度やブランド知名度が高くなるため、それが自社の信用につながる。
- ウ. マーケットシェアが高いとしても、企業側が生産や販売に関する情報の有用性を意識しなければ、情動的経営資源として活用できない。
- エ. マーケットシェアが低いと、情報の流れが少なくなるため、情動的経営資源を活用できる余地は乏しい。

問題13 経営計画への考え方について、1950年代からの発展過程を4段階に分けた場合の記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 第1段階では、まず従業員による価値観の共有から経営計画のプランニングが始まっていた。
- イ. 第2段階では、現状を延長するような計画が一般的であった。
- ウ. 第3段階では、競争環境の中における自社の位置付けについて意思決定を迫られた。
- エ. 第4段階では、環境に働きかけるため、より視野が広範になっていった。

問題14 ビジョンの策定に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. どの事業を中核とするかは、ビジョンの構成要素となる。
- イ. ビジョンの要素に、競合関係は含まれない。
- ウ. ビジョンには、抽象性のみならず具体性を盛り込むことが求められてきている。
- エ. ビジョンとは未来のあるべき姿を明示するものであるため、現在の延長線がふさわしいとは限らない。

問題15 複数の事業・製品を展開する製造業において、経営目標と実際の経営状況とのギャップを埋めるために策定する経営方針に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 短期的な視点ではなく、中長期的な視点から、あるべき企業の姿に近づくための中長期経営方針を策定する。
- イ. 既存事業の方向性だけではなく、新規事業への取組も明確にし、それぞれの事業の重み付けを考慮した事業構成方針を策定する。
- ウ. 製品や市場ごとの売上高目標や利益目標に捉われずに、全社的な製品・市場方針を策定する。
- エ. 従業員の意識改革を目指したり、教育育成のスケジュールを立てたり、組織として実施すべき組織的課題を定めた組織文化方針を策定する。

問題16 経営計画の策定に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 経営計画は、まずラインが計画を作成し、それを積み上げることによって、全体の計画を策定しなければならない。
- イ. 経営計画は、対象とする期間や計画の対象となる事業部門の置かれている環境にかかわらず、常に具体的なものでなければならない。
- ウ. 経営目標を達成するためには、経営計画の見直しをしてはならない。
- エ. 経営計画のフォームや計画策定のための会議形式には、実際の経営計画の策定現場において非常に重要な意味がある。

問題17 経営計画における機能別計画に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア．マーケティング計画には、商品市場計画、販売チャネル計画、価格計画、販売促進計画及び商品の生産計画が含まれる。
- イ．研究開発計画は、まず年度計画の中で、開発組織、全体の資源投入を検討した上で、その後、シーズ探索・経済性・定性評価・予算検討というステップを踏んでテーマ選定を行う。
- ウ．財務計画は、買掛債務の支払計画、借入金の返済計画、資金調達計画、売掛債権の回収計画、資金繰り計画、余剰資金の運用計画で構成されるため、通常、販売計画、仕入計画、経費予算が策定された後に策定される。
- エ．人事計画においては、各部門の必要人員をそのまま積み上げることによって、全社の要員計画・賃金水準計画が策定される。

問題18 経営計画に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．戦略的投資計画は、具体的にはM&Aをはじめとする事業再編の手法等を駆使して戦略に基づいた経営計画の遂行と達成を目指すものである。
- イ．全社損益計画は、全社目標利益を達成するためにどのくらいの売上高・売上総利益が必要か、経費はどのくらいに抑えなければならないかを明らかにしたものである。
- ウ．資金繰り計画は、損益計画に人材育成計画を加味し、自社の売掛債権の回収条件や買掛債務の支払条件を反映させ、各月の入出金額を予測する。
- エ．投資計画には、既存事業並びに新規事業に対する設備投資計画がある。

問題19 経営目標に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．経営目標を構成する企業ビジョンとは、経営活動で実現したいと考える企業のあるべき姿を、定量的目標により明確にしたものである。
- イ．経営目標は、企業の経営理念や中長期経営数値目標から構成され、長期的な企業の成長を支える役割を持つ。
- ウ．経営目標の体系には、全社的な経営目標のほかに、事業部門ごとにそれを落とし込んだ部門別目標も含まれ、組織全体の方向性を統一する。
- エ．実現可能な目標水準を設定することにより、従業員の成長や業務の優先順位の明確化が図られる。

問題20 経営戦略策定プロセスに関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．経営目標を設定したあと、マクロとミクロの経営環境を分析することで、自社の強みと弱みを識別できる。
- イ．外部分析の目的の1つは、自社を取り巻く環境や自社の事業そのものの不確実性を認識することである。
- ウ．自社能力の分析によって現在の自社の経営能力を把握し、経営戦略や戦略計画の遂行・達成のために自社に欠けているものを把握できる。
- エ．自社能力と経営環境の分析を行い、経営目標を達成するために求められる複数の戦略代替案を構築した上で、その中から最終的に1つの案を選択する。

問題21 経営戦略の策定プロセスに関する＜用語＞とその＜内容＞に関する記述として適切な組合せは、次のうちどれか。

＜用語＞

- ①．実行計画の立案
- ②．経営環境及び自社能力の分析
- ③．経営目標の設定
- ④．戦略代替案の構築と評価・選択

＜内容＞

- A．あるべき将来の企業像を描く。
- B．実現するための具体的な計画を策定する。
- C．今後起こりうるシナリオを検討する。
- D．経営資源や強み・弱みについて、自社と競合他社とを対比する。

- ア．①とD
- イ．②とA
- ウ．③とB
- エ．④とC

問題22 経営戦略の策定に関する a ～ d の記述のうち不適切なものは、いくつあるか。

- a. 経営戦略の策定とは、将来の経営環境に適応可能な「あるべき姿」としての自社を導くためのプログラムである。
- b. 競合企業は自社にとって「外部」であるが、競合企業を対象とした分析は、経営環境分析ではなく、自社と競合他社を対比して競合他社と自社の強みと弱みを明らかにするために自社能力分析として行われる。
- c. 経営戦略策定の手順は、経営目標の設定 → 経営環境の分析 → 自社能力の分析 → 戦略代替案の構築と評価・選択 → 実行計画の立案からなる。
- d. 実行計画の立案には、戦略代替案が選択された後、その案を実現するための具体的な数値計画や行動計画の立案が含まれる。

- ア. なし
- イ. 1つ
- ウ. 2つ
- エ. 3つ

問題23 経営戦略の策定プロセスに関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 経営戦略を策定するに当たっては、まず経営目標の設定に取り組む必要がある。
- イ. 競合他社の分析は、経営環境の分析のみならず、自社能力の分析にも必要である。
- ウ. 経営環境の不確実性が高い場合は、外部分析より自社能力の分析に注力する。
- エ. 実行計画の立案に際して重要な重要業績評価指標（K P I）を掲げ、これをモニタリングすることで、実行計画の成果や環境の変化について、いち早い情報の把握が期待できる。

問題24 製品ライフサイクルの成熟期における戦略に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 製品がほとんど無名で買手が少なく、需要は小さい。そのため、企業は顧客への製品認知度を高め、市場の拡大に努める戦略を立案することが重要である。
- イ. 市場に広く受け入れられるために製品として持つべき機能が定まり、参入業者の増加と価格の低下が進み、その結果、市場に製品が急速に普及する。そのため、企業は自社製品の市場浸透を図り、ブランド選好を高める戦略を立案することが重要である。
- ウ. 新しい産業で技術的に優れた製品が生まれると、既存製品の需要が減退する。そのため、企業は低下する売上規模から利益を確保するために、事業活動のコストを削減することが必要となる。
- エ. 市場への製品普及率が飽和し、買い替え需要が中心となり、需要の伸びが鈍化する。企業間競争が激しくなるため、製品差別化により市場シェアの維持、拡大を図るのが合理的な戦略となる。

問題25 業績分析に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア．流動比率は、収益性を分析する指標である。
- イ．自己資本比率は、成長性を分析する指標である。
- ウ．当座比率は、安全性を分析する指標である。
- エ．株主資本利益率（ROE）は、企業の総合的な事業活動の利益率を分析する指標である。

問題26 顧客分析に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．行動変数による市場細分化の中でも代表的なものが、ベネフィット（便益）による細分化である。
- イ．クレームのモニタリングは、未充足ニーズを発見するための重要な情報源である。
- ウ．消費者の購買決定プロセスは、消費者の購買行動の直前から始まり、購買後は長く影響を残す。
- エ．クリエイティブ思考を実践するためには、アイデアを市場においてテストできるような改善メカニズムが必要となる。

問題27 経営環境の構成要素に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．新製品の市場への導入期において、売上げが急速に伸びない理由の1つとして、量産技術の開発の遅れが考えられる。
- イ．経営環境分析は、企業を取り巻く全ての要因を対象とし、できる限り綿密かつ広範囲に行う必要がある。
- ウ．戦略的不確実性が緊要である場合、特に詳細かつ的確な戦略的意思決定を行うための外部分析が必要となる。
- エ．マクロ環境分析は、技術、政府規制、経済、文化、人口動態などを対象に行う。

問題28 経営環境分析に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．重要経営課題の創出段階では、成長機会の活用、脅威への対処などの経営構造変革を伴う課題を環境要因ごとの分析結果から導き出す。
- イ．第1のステップは、情報収集であり、次に環境要因の選定を行う。
- ウ．環境要因の変化予測においては、正確な予測よりもトレンドをつかむことに留意することが重要である。
- エ．環境要因分析のマネジメントとして、インパクトが高く緊急性が低い場合は、深く丁寧なモニタリングと分析を行うべきである。

問題29 自社の強みと弱みの検討を行う場合の手順として適切なものは、次のうちどれか。

- ①. 自社と競合企業の強みと弱みを、研究開発、生産、営業などの事業運営の個別機能によって分類整理する。
- ②. どの企業を、自社の競合先と見なすかという競合の特定化を行う。
- ③. 自社と競合企業の強みと弱みを、業界のK S F（Key Success Factor）に照らし合わせて評価する。
- ④. 業界構造の分析を行い、その業界におけるK S Fを見極める。

- ア. ④ → ② → ① → ③
- イ. ③ → ① → ② → ④
- ウ. ② → ① → ③ → ④
- エ. ① → ③ → ④ → ②

問題30 経営資源の分析に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア. ブランドロイヤリティは、長期間かけて築いてきた資産であり簡単には失われない。
- イ. 売上げが伸びているということは、顧客のニーズに応え他社製品に勝っていると判断できる。
- ウ. 研究開発型企业には、単に特許を取得し技術的な優位性を保つだけでなく、領域によってはその技術を公開することで市場や需要を喚起するようなオープン戦略を策定することが重要な場合もある。
- エ. 売上げや市場占有率を財務業績指標として利用するメリットは、短期的な事情から影響を受けないことである。

問題31 ポジショニング分析に関する＜用語＞とその＜説明＞の組合せとして適切なものは、次のうちどれか。

＜用語＞

- ①. フォロアー
- ②. ニッチャー
- ③. リーダー
- ④. チャレンジャー

＜説明＞

- A. 自社がこのポジションにあるならば、自社製品にこだわらず、同様な製品の市場全体の拡大を図ることが必要である。
- B. 経営資源の量が乏しくシェアも低いが、限られた狭い分野では非常に優れた技術を持つ企業である。
- C. 自社の得意な分野に限定して、そこに経営資源を集中すれば、その分野では競争に勝つことができる。
- D. 経営資源が乏しく特に優れた技術も持たない企業であり、他社が成功した路線を模倣することで利益を上げる戦略が有効になる。

- ア. ④とB
- イ. ③とA
- ウ. ②とD
- エ. ①とC

問題32 自社能力の分析に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 自社能力の分析と経営環境の分析はいずれも経営目標達成のために必要といえる。
- イ. 自社能力の分析から把握した機会・脅威は、経営戦略立案に当たって経営資源との適合の評価に重要となる。
- ウ. 強み、弱みは、新たな業態の出現などの経営環境の変化の影響を受けるから、どのような要素がこれらに影響し得るかを常に見極めておく必要がある。
- エ. K S Fが競合他社より優れている場合は、自社に強みがあるといってよい。

問題33 多角化の効果に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．関連多角化により企業の事業規模が拡大すると、競争ポジションが改善され、長期的な平均費用が削減されるため、全社的な資源の生産性が高まる。
- イ．関連多角化により複数の事業を有している場合、その中の中心の事業で危機的な事態が発生したとしても、非関連多角化に比べて企業全体に及ぼす影響は緩和される。
- ウ．多額の余剰資金を有する企業は、非関連多角化を行うことによって、投資資金の配分をより効率的に進めることが可能になる。
- エ．本業が衰退しつつある局面でも、非関連多角化によって成長性の高い事業を買収し、利益を獲得することができれば、企業の存続の可能性を高めることができる。

問題34 製品・サービス開発戦略に該当する事例に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア．コンビニエンスストアチェーンのA社は、ナショナルブランドである大手食品メーカーと共同開発して、手ごろな値段で美味しさを訴求するプレミアム総菜シリーズを店内で販売した。
- イ．電力会社のB社は、メーターの検定有効期間が満了した既存顧客に対し、通信機能の付いたスマートメーターを無料で設置するサービスを提供し始めた。これにより、検針業務が自動化され、顧客は都度電気使用状況を確認できるようになった。
- ウ．eコマースのC社は、当初、書籍のネット販売を行っていたが、現在は、既存顧客を対象とする電子書籍の販売も手がけるようになった。
- エ．菓子メーカーのD社は、子供をメインターゲットとしていた菓子類をオフィスに置いて販売するようになった。

問題35 製品市場マトリックスに関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア．市場浸透戦略において企業がとるべき方策としては、マーケットシェアの拡大と既存市場に向けた異質な新規製品の開発の2つが考えられる。
- イ．市場開発戦略のポイントは、顧客セグメントや市場セグメントをどのように再編するかにある。
- ウ．多角化戦略とは、企業が現在活動する既存市場や顧客に、新たな製品を投入する戦略である。
- エ．製品開発戦略のためには、新規の市場や顧客が何らかの新規性を感じる製品の開発ができるかどうか重要となる。

問題36 経営戦略にフィットしたHRM（Human Resource Management=人的資源管理）施策という観点で不適切な組合せは、次のうちどれか。

<戦略>

- a. イノベーション戦略
- b. 高品質戦略
- c. コスト削減戦略

<HRM施策>

- 1. 明確化・固定化された職務内容
- 2. 短期志向で結果重視の評価
- 3. 幅広いスキル開発と幅広いキャリアパス
- 4. 最低限の人材開発

- ア. aと3
- イ. bと4
- ウ. cと1
- エ. cと2

問題37 経営分析手法に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 経営比率分析を行う場合、基本的に必要とする決算書は、貸借対照表と損益計算書であるが、これらに加え、キャッシュ・フロー計算書も重視されている。
- イ. 経営比率分析における比較分析手法には、標準比較（同業種・同規模の企業の標準値との比較）、期間比較（当期と前期、前々期との比較）及び他社比較（競合企業の各種経営比率の比較）等がある。
- ウ. 経営比率分析においては、一般に、収益性、安全性及び効率性の面から決算書を分析する。安全性を分析する場合、対象とする決算書は主として損益計算書である。
- エ. 企業価値最大化に向けた収益性の分析に当たっては、株主資本利益率の分析から着手することが一般的である。

問題38 キャッシュ・フロー計算書において、財務活動によるキャッシュ・フローがマイナスを示す記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア. 設備投資のため借入れを行う場合
- イ. 子会社に対して貸付けを行う場合
- ウ. 自社の株主に対して配当金を支払う場合
- エ. 有価証券を取得する場合

問題39 経営戦略に関する記述として適切なものは、次のうちどれか。

- ア．業界におけるリーダー企業は、業界において市場シェアも大きく経営資源も高い企業である。
- イ．業界において、2位、3位の地位にあるチャレンジャー企業は、リーダー企業が成功した路線を模倣して利益の拡大に努めるべきである。
- ウ．経験曲線効果が期待できるのは、高技術・大量生産が要求される耐久消費財の分野に限られる。
- エ．顧客の多様なニーズに応えるには、ワントゥワン・マーケティングよりもマス・マーケティングの方が有効である。

問題40 マーケティング戦略に関する記述 a～d のうち不適切なものは、いくつあるか。

- a．計画的陳腐化戦略とは、製品戦略の1つであり、既存製品のデザインや機能を短期間で変更することによって魅力度を下げ、新製品への買替需要を喚起するものである。
- b．上澄み吸収価格戦略とは、あらかじめ高い価格を設定し、価格に敏感ではない顧客をターゲットに商品を販売する戦略であり、価格に対する顧客の心理的付加価値としては、安心・安全・信用といった購買要因が作用する。
- c．従来の販売促進を中心とするマーケティング手法では、顧客のニーズに十分対応しきれないため、顧客に選んでもらえるような製品・サービスを提供するプッシュ戦略の活用がより重要となる。
- d．情報通信技術の発展は、顧客一人ひとりの細かいニーズの把握を可能にし、製品・サービスの新たな提供手段をもたらし、マス・マーケティングの実現が成熟化社会ではより重要となる。

- ア． 1つ
- イ． 2つ
- ウ． 3つ
- エ． 4つ